

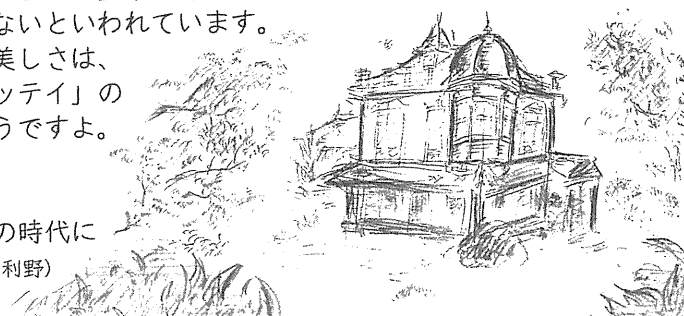
国指定名勝「盛美園」

青森県の旧尾上町(現平川市)は古くから植木の町として知られ、その一画に、国指定名勝の『盛美園』があります。明治35年から9年もの歳月を費やして造られた庭園は武学流という庭作りの真髄を示した名園といわれ、京都の無隣庵、清風荘とともに明治時代の三名園の一つに数えられています。

3,600坪の広大な庭園を眺めるために建てられた和洋折衷様式の「盛美館」は、一階部分が純和風の数奇屋造り、二階部分は、まるで空中に浮かんでいるようなドーム屋根の展望室が特徴的な珍しい建物で、日本では他に例がないといわれています。

日本庭園の中に見事なまでに溶け込んでいる美しさは、スタジオジブリの映画「借りぐらしのアリエッティ」のイメージの一部になったともいわれているそうですよ。

また、金色に輝く「御宝殿」では、日本最大の蒔絵を堪能することもできます。これからの季節、紅葉をめながら文明開化の時代に想いをはせる…ことも、素敵ですね。(利野)



甘くて美味しい 一球入魂かぼちゃ

青森県下北・今別地域は夏でも冷涼な気候のため、美味しいかぼちゃ作りに大変適しています。通常、かぼちゃは親づる1株に3~5個の実をつけますが、成長とともに伸びてくる側枝を全て取り払い、1株に1個だけ実を残す独特の栽培方法で作上げたのが「一球入魂かぼちゃ」です。



こうすることで、全栄養が注がれ、旨みが凝縮された美味しいかぼちゃが出来るのです。

“ダークホース”という西洋かぼちゃの種を使い、一球入魂でつくられたかぼちゃは、糖度が13~15度もあります。一般のかぼちゃで10~12度くらいなので「一球入魂かぼちゃ」がいかに甘いか、お分かりになると思います。

かぼちゃの美味しさである、甘さとホクホク感を同時に出すことはとても難しいのですが、この難題を見事クリアして、バランスの優れた高級かぼちゃとして大変注目されています。

この秋、「一球入魂かぼちゃ」のもつ絶妙な美味しさを、味わってみませんか。(村木)

津軽伝統こけし

江戸時代末期ごろ、東北の温泉地のお土産として産まれた「こけし」。それぞれの土地で独自の顔や胴の模様などが受け継がれてきました。

青森に伝わる津軽系こけしは、すそ広でくびれた胴、オカッパ頭のかわいらしいこけしで1本の木から削りだして作るため、頭が回転しないのが特徴です。

胴の絵柄は、草木の他にねぶた模様や津軽藩の家紋の牡丹の花などいろいろあります。津軽系こけしの発祥地、黒石市温泉(ぬるゆ)温泉にある津軽こけし館では、全国のこけし4,000体を展示、こけし作りの見学や絵付け体験などもあります。

胴の美しい絵柄や表情のちがいがなど1体1体手づくりの温かい味わいが感じられると思います。

棟方志功画伯が描いたやさしいお顔のこけしにも会えますよ。



また、12月の東北新幹線全線開通に向けて、樹齢300年以上のカツラの木を使って、高さ4.21mの巨大こけしを製作中とのこと!!

“日本一のジャンボこけし”楽しみですね。(橋本)

イラスト:東

第34号
平成22年10月

の
か
く
の
や
便
り

《お客様のお声をお聞かせください》

この紙面や八戸情報に対するお便りの他、「〇〇〇おいしかったよ。」「こんな食べ方が美味しい」といった商品に対するお便りなど、なんでも結構です。お寄せいただいたお客様の喜びの声、ご意見を元に、商品やサービスの向上に反映させていきたいと思っております。

※今後、味の加久の屋からの情報をご不要という方は、お手数でも、ダイレクトメールの封筒を、同封の返信用封筒にお入れになり、ご返送ください。